

# LETTER FROM COPENHAGEN コペンハーゲン通信 PART V 1



## デンマーク王国 DATA

人口562万人(≒北海道)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より、当事務局員が2年の任期で在デンマーク日本大使館に出向しています。今年1月に木下潤一より山口晃平にバトンタッチしました。そこで、今月号より新たに「コペンハーゲン通信Part V」として、デンマークからの現地報告を引き続きお届けします。



デンマーク・クローネ  
※デンマーク中央銀行ホームページより



デンマーク中央銀行



## 山口 晃平

在デンマーク日本大使館二等書記官  
(経済同友会事務局より出向中)

本年1月より、木下書記官の後任として着任した山口と申します。デンマークでの職務や生活を通じて知り得た興味深い情報を誌面でお伝えできたらと思います。どうぞよろしくお願いたします。

## デンマークの通貨・為替政策

日本の通貨と言えば円、アメリカ合衆国であればドル、それでは、デンマークの通貨と言えば何でしょう？「ユーロ！」と答える方もいらっしゃるかもしれませんが、答えは、デンマーク・クローネ(DKK)です。デンマークはEU加盟国ですが、英国、スウェーデン等と同様に、ユーロ導入に際して行われた国民投票の結果ユーロ不参加となり、現在でもデンマーク独自の通貨、DKKを堅持しています。

隣国のドイツをはじめとするEU諸国への輸出額が大きいデンマークは、1982年以降はドイツ・マルクに、ユーロ導入以降は一定範囲内でユーロにペッグ(連動)する政策を採っていますが、実は今、この政策が強い外圧にさらされています。スイス国立銀行(中央銀行)がスイス・フランの対ユーロの相場上限を撤廃して以降、「DKKが第二のスイス・フランになるのでは？(ユーロペッグ政策をやめるのでは)」との臆測から、1月だけで、海外から約1,060億DKK(約1.9兆円。3月1日現在の為替レートによる。以下同様)もの資金が流入したのです。

こうした事態を受けて、デンマーク中央銀行は、今年に入ってから計4回にわたって、主要な政策金利である譲渡性金利をマイナス0.75%まで引き下げました。さらに市場関係者を驚かせたのが、デンマーク中央銀行による、デンマーク国債発行停止の発表でした。この日本とは真逆の金融政策について、同行ローデ総裁は、「同措置をデンマーク版の量的緩和(金利を引き下げを目的に国債流通量を制限する点で近似の効果を持つもの)である」と発言しました。さらに、DKK保有の誘因を減退させる効果があると述べた上で、DKKのユーロペッグ政策を堅持するためには、必要なありとあらゆる措置を取るという姿勢を強調しました。個人的には、国債の発行停止というその手法もさることながら、それを財務省ではなく中央銀行が発表するという事に驚きました。いろいろな意味で、日本では考えにくいことではないかと思えます。

3月上旬時点では外貨流入に歯止めがかかっているとの報道もありますが、他方、2月末時点でのデンマーク中央銀行の外貨準備は7,371億DKK(約13.2兆円)と、過去最高を記録するなど、まだまだ予断を許さない状況でもあります。また、政策金利のマイナス圏が続く中、一部の市中銀行では、預金者に対してマイナス金利を提示する動きも出始めており、デンマーク中央銀行は難しい選択を迫られています。緊急対応からの出口戦略も含めた、当局の今後の動きに注目したいと思います。